



私は二〇〇六年四月から、山梨市立牧丘病院に勤務しています。同病院にはいずれも自治医大を卒業した三人の医師が勤めています。診療スタイルは科にこだわらず、いわゆるプライマリ・ケアを地で行くものです。私のこの文章は、山梨県の地図を用意していただいたほうが分かりやすいかもしれません。

私の前任地は同一医療圏に属する旧塩山市(現甲州市)の塩山診療所です。当時から引き続いて、訪問診療に積極的に取り組んでいます。現在カバーしているのは六十一ヶケースで、月平均百二十件程度の訪問診療を行っています。

現任地の山梨市は甲府市の北東に位置し、埼玉県や長野県と

幅広い地域医療にまい進

接しています。山梨市から笛吹川という川が発し、甲府盆地のなかほどで西北から流れてくる。釜無川と合流して富士川となり、駿河湾に注ぎます。同病院の診療圏の辺境は、つまりは笛吹川もしくはその支流の最上流地域の集落というわけです。塩山診療所時代には甲州市一

之瀬地区で出張診療もしていました。ここは山梨県の北東の隅で、もう少し進めば、東京都という所です。多摩川の源流地域であり、ここを発した水は東京都民の水道水となり、やがて東京湾に注ぎます。任地が変わった今も、訪問診療に訪れてい

ることができるといつわけです。時々、実習で来る学生たちには「出張診療が訪問診療の途中で立ち小便をすれば、それはやがて前記のいずれかの湾に注ぐ。それほど活動は幅広いんだよ」といった冗談を言っています。

へき地巡回診療

へき地に住む人々はいろいろな情報に接しにくく、視野が狭いと思われるかもしれませんが、しかし、世界に対する理解は深く、思想や知恵も素晴らしい上にグローバルで深く、驚かされることしばしばあります。

へき地に住む人々はいろいろな情報に接しにくく、視野が狭いと思われるかもしれませんが、しかし、世界に対する理解は深く、思想や知恵も素晴らしい上にグローバルで深く、驚かされることしばしばあります。

達人に会える喜び

非常勤で週一回、大月市立中央病院健診センターにも出向き、「へき地巡回診療」をしています。ここで言うへき地は、富士山のふもとの中湖を発してこの地を流れる桂川の各支流の最上流地域を指し、計六カ所で診療を行っています。桂川はやがて相模川と名を変え、相模湾に注ぎます。

つまり私は、山梨県の北東部に存する多くの医療過疎集落を直接見ることができ、人々に会

地域での医療はある意味フィールドワークであり、私は、さまざまな集落で暮らすさまざまな人生の達人たちに出会えることを無上の喜びとしています。学生の時、こういう私をはぐくみ、医師にしてくれた栃木の方々に感謝して、この文を閉じます。

(次回予定は富山県)

ふるや さとし
古屋 聡 10期生1987年卒



訪問診療に積極的に取り組んでいる古屋医師が、甲州市内の家庭を訪れた時の様子

山梨市立牧丘病院

【私の勤務地】2005年3月に合併する前は牧丘町の病院で、06年4月からは指定管理者制度により、山梨厚生会が管理している。30床、医師3人の小病院である。非常勤で訪れている大月市立中央病院は山梨県の東部地域にある大月市の医療を支えている。240床余りの中規模病院。